

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	スポーツコミュニケーションスクールカラフル・金沢もりの里校		
○保護者評価実施期間	令和8年2月17日		～ 令和8年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和8年2月17日		～ 令和8年2月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月3日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さま一人ひとりに寄り添う丁寧な支援とスタッフ間の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さま一人ひとりの育ちを大切に、スタッフ全員で一貫した支援を行っている。</li> <li>・支援前後のミーティングや日報共有アプリを活用し、当日中に気づきや支援内容を全職員で共有することで、迅速な支援の見直しに繋がっている。</li> <li>・特定の個人に依存せず、専門性を発揮できる「何でも言える雰囲気づくり」を大切にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板などのICT機器を導入し、情報の可視化と共有精度をさらに高めていく。</li> <li>・外部研修や事例検討の機会を増やし、職員の専門性向上を継続的に進める。</li> <li>・情報の抜け漏れ防止と振り返りの質をさらに高め、チーム支援の精度を向上させる。</li> </ul>
2	特性に配慮した環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さまが見通しを持って安心して過ごせるよう、視覚支援カードやパーテーションを用いた環境づくりを実施している。</li> <li>・運動スペースと学習等の静かなスペースを分離し、混乱を防ぐ工夫をしている。</li> <li>・ブラダン製ハウスを設置し、一人で落ち着けるクールダウンの場を確保している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独自のスポーツプログラム(カラフルスポーツ)をさらに充実させ、季節行事等も積極的に取り入れていく。</li> <li>・お子さまの感覚特性に応じた細やかな個別調整を強化し、より快適に過ごせる環境を追求する。</li> <li>・活動選択ボード等の視覚支援を充実させ、お子さまが主体的に過ごせる仕組みを整える。</li> </ul>
3	個別支援計画に基づくPDCAの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援に迷った際は個別支援計画に立ち返ることを基本とし、達成状況を数値(%)で確認するなど、計画に沿った客観的な評価を行っている。</li> <li>・定期的な事業所内研修に加え、受講内容を共有する「伝達研修」を実施し、組織全体の知識レベルの底上げと支援の質の向上に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画の達成状況の数値化をより活用し、評価の充実に努める。</li> <li>・発達段階に応じた「専門的支援実施計画」を策定し、必要に応じて集団から個別に取り出した専門性の高い支援を提供する。</li> <li>・自主的に学ぶ意識を持ち、研修の学びを実践に活かせる体制を整え、プログラムの質を向上させる。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	安全対策の可視化と健康管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまではお子さまが安全に過ごせる環境づくりを最優先してきましたが、その取組内容を保護者様へ十分にお伝えできていないことが課題である。</li> <li>・予防接種状況などの詳細な健康情報の把握についても、より丁寧な確認体制が必要であると認識している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「安全計画」「BCP(業務継続計画)」の定期的な見直しと改訂を行い、実効性を高める。</li> <li>・ヒヤリハット事例を速やかに分析し、再発防止策を環境改善に反映させるとともに、災害時等の対応策を常に更新し、安全管理を徹底する。</li> <li>・緊急時に保護者と迅速に連携できるよう、常日頃から双方向の信頼関係を築く。</li> <li>・避難訓練等の機会を活用し、安否確認を迅速に行うための「緊急時連絡訓練」を実施する。</li> </ul>
2	家族支援および保護者間交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前、保護者交流会を試みただけで、開催形式や日程調整の難しさから継続的な実施に至らなかった経緯がある。</li> <li>・保護者様同士が自然に、かつリラックスして対話できる場のあり方について、さらなる検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加しやすい小規模な「茶話会」などの形式から、段階的に交流の場を設けていきたい。</li> <li>・デジタルに不慣れな方を含む全てのご家庭に情報をお届けできるよう、Instagram等のSNSに加え、お手紙等のアナログな周知方法も併用して工夫していく。</li> <li>・家族支援に関する研修等も実施し、スタッフの専門性を向上させたい。</li> </ul>
3	地域連携・外部ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所移転後の2年間は、お子さまの安全・安心な環境整備と内部体制の構築を優先してきたため、地域や外部機関との交流に十分な時間を確保できていないことも一因と考えている。</li> <li>・関係構築には段階的な働きかけが必要であり、時間を要している現状がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政や相談支援専門員等の関係機関と定期的な情報交換を行い、顔の見える関係づくりを進めていく。</li> <li>・地域との友好的な関係を築き、地域に根差した事業所となることを目指し、近隣施設との交流機会を創出する。</li> <li>・SNS等を通じ、地域社会への活動理解を深めていただくよう努める。</li> </ul>

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	スポーツコミュニケーションスクールカラフル・金沢もりの里校						公表日	2026年3月5日	
						利用児童数	1名	回収数	1名
	チェック項目	はい(%)	どちらとも いえない (%)	いいえ(%)	わからない (%)	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100						
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。		100					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100						
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100						
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100						
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	100						
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100						
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100						
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100						
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。				100			
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100						
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100						
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。				100			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	100						
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100						
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100						
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	100						

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	100				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	100				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。			100		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100				
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	100				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	100				
	29	事業所の支援に満足していますか。	100				

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		スポーツコミュニケーションスクールカラフル・金沢もりの里校			公表日	令和8年3月5日
	チェック項目	はい(%)	いいえ(%)	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	83	17	・利用児童が10名を超える場合は、十分にのびのびと運動できる環境を確保するため、プログラムを「カラフルスポーツ」と「トレッキング」の2つに分けて実施している。 ・利用児童の人数や特性に応じて、大空間をパーティション等で区切るなど、活動内容に合わせた柔軟な空間設定を行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	67	33	・待機職員が多いことで、児童が落ち着いて過ごしやすい環境につながっていると考えられる。 ・支援は必要に応じてマンツーマンで対応するが、どの職員も全体を見渡しながら、度の児童にもまんべんなく対応している。また、利用児童の人数や特性に応じた職員配置を行い、常に見守りが行き届く体制を整えている。	・現状は法令を遵守した人員配置となっているが、緊急時(スタッフの感染症、警報レベルの降雪、災害時等)における安全性をより高める人員体制については、今後さらに検討していく必要がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	33	67	・視覚支援カードの活用や活動エリアの明確化を行い、子どもが見通しを持って安心して過ごせるよう構造化に努めている。	・建物は鉄骨造であり、一部に安全面で配慮が必要な箇所があり、配慮が必要な箇所については適切な対策を講じていかなくてはならない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	67	33	・日頃から整理整頓を心がけ、視覚支援や空間の区切り等の対策を実施して個別スペースの確保など、児童一人ひとりに配慮した環境づくりに努めている。 ・運動できるスペースを確保するとともに、宿題や工作等の静的活動を並行して実施できるスペースも整備している。 ・聴覚過敏のある児童にはイヤーマフの貸し出しを行っている。	・環境調整については、今後さらなる工夫が必要と考えられる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100		・ブラダン製のハウスを設置し、一人で過ごせる空間を確保している。また、必要に応じてクールダウンスペースとして活用し、情緒の安定を図れる環境を整えている。	・着替えについては、決まった場所の設定や、カーテンで仕切る方法を取り入れることで、順番に落ち着いて着替えができる環境づくりを今後検討していきたい。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100		・職員間での話し合いは適切に行われており、ミーティングを通して情報共有が図られている。 ・定期的に会議を実施し、目標設定および支援内容の振り返りを行っている。また、共有された課題については改善策を検討し、次の支援に反映している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		・保護者様からの率直なご意見を受け、気づきをもとに改善につなげた事例があり、いただいた声をそのままにしない体制を整えている。 ・保護者向け評価表を実施し、その結果をスタッフで分析・共有するとともに、必要な改善策を検討し、業務改善に反映している。なお、結果についてはホームページで公開している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		・意見を提案しやすい体制を整え、支援方法や環境整備の見直しに反映している。これらは日々のミーティングの中で継続的に実施している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	67	33	・今年度は第三者評価を実施していないが、過去に外部専門家によるプログラムのスーパーバイズを受けた実績や、県の要請事業等を実施した経験がある。	・今後も外部の視点を積極的に取り入れながら、支援の質の向上に努めていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100		・年間計画に基づき法人内研修を実施するとともに、必要に応じて外部研修への参加機会を確保し、職員の資質向上に努めている。 ・事業所内でも研修の機会を設け、職員が積極的に学べる体制を整えている。また、研修受講後は部内で伝達研修を行い、学びの共有を図っている。これらの取り組みを通して、支援力の向上に継続的に取り組んでいる。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100		・月間の活動計画を作成し、内容を保護者へ周知するとともに、必要に応じてホームページ等で公表している。 ・子どもの特性を考慮した指導案を作成し、月ごとに変化のあるプログラムを実施している。さらに、曜日ごとの小集団の状況に合わせたプログラムの工夫にも取り組んでいる。	

12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100		・保護者との信頼関係構築に努めるとともに、相談支援専門員等と情報共有を行い、課題を客観的に分析したうえで個別支援計画を作成している。	
13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100		・支援会議や日々のミーティングを通して情報共有を行い、児童発達支援管理責任者だけでなく関係職員が共通理解のもと計画の検討を行っている。職員は個別支援計画を確認し、内容を踏まえて統一した支援にあたっている。 ・支援内容が個別支援計画に沿ったものとなるよう、児童発達支援管理責任者が随時助言・確認を行う体制を整えている。	
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100		・ミーティング時に個別支援計画を確認できる体制を整えている。作成した計画は職員間で共有し、内容に基づいた支援を実施している。 ・支援に迷った際には個別支援計画に立ち返るよう職員へ周知している。	
15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	67	33	・保護者の同意のもと、医療機関等で実施された標準化された心理検査・発達検査の結果を参考資料として活用している。 また日々の行動観察や記録に基づくインフォーマルアセスメントを継続的に行い、個別支援計画の作成および見直しに反映している。	
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100		・ガイドラインの「本人支援・家族支援・移行支援・地域支援」の視点を踏まえ、保護者からの聞き取りやモニタリング内容を反映し、具体的な支援内容を設定している。また、保護者のレスポンスを把握し、延長支援や日々の相談援助を通して、家庭での悩みや困りごとに寄り添う支援を実施している。 ・地域住民と連携した「ハロウィン行事」を初めて企画・実施し、子どもたちが多様な人々と交流できる機会を創出した。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	83	17	・活動プログラムは職員間で協議の上、役割分担を明確にし、チームで立案する体制を整えている。また、支援開始前に役割分担を確認し、終了後には振り返りを行って気づきを共有することで、日々の学びを速やかにプログラムへ反映している。 ・「何でも言える雰囲気づくり」を大切にし、職員間の円滑な意思疎通と情報共有の促進に努めている。 ・特定の個人に依存せず、保育士や児童指導員がそれぞれの専門性を発揮しながら、子どものニーズを的確に捉えている。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100		・運動プログラムでは、月ごとにサッカー、ドッジボール、大縄跳び等、種目に変化を持たせ、活動が固定化しないよう工夫している。あわせて、利用児童の特性を考慮し、児童や保護者からのリクエストも適宜取り入れている。また、翌日のミーティングで職員間の意見交換を行い、子どもの反応に基づいたトライアンドエラーを重ね、個々のニーズに応じた質の高い支援プログラムへと改善を図っている。	
19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100		・子どもの状況に応じて個別活動と集団活動を組み合わせ、柔軟に対応できる体制を整えている。保育士によるアセスメントに基づき、一人ひとりの発達段階や特性に応じた専門的支援（個別支援）を実施している。また、集団活動においても必要に応じて個別対応を取り入れ、職員が連携しながら、個と集団のバランスを意識した支援を行っている。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100		・支援開始前に職員間で打ち合わせを行い、その日の支援内容および役割分担を確認している。5領域を意識し、メインの運動プログラムだけでなく、事業所到着時から一人ひとりの課題を把握するよう努めている。また、集団・個別それぞれの対応についても丁寧に協議し、担当を明確にしたうえで、チームで連携した支援を実施している。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100		・支援終了後には振り返りを行い、日報共有アプリを活用して当日中に情報共有を実施している。さらに、翌日のミーティングでも前日の支援を確認し、職員間で共通理解を図っている。ミーティングでは気づきを共有するとともに、支援記録から課題を抽出し、前回の内容を踏まえて個々の次回目標・課題の設定につなげている。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	67	33	・日々の支援については記録を徹底し、支援の検証・改善につなげている。支援記録には、できたことや課題を具体的に記載し、その日の活動内容や子どもの様子が保護者に伝わるよう、丁寧な記録作成に努めている。あわせて日報も活用し、継続的な振り返りを行っている。また、保護者から寄せられたコメントは必ず職員間で共有し、次の支援へ反映している。	

	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100		・定期的なモニタリングにおいて保護者様の意向を丁寧にヒアリングし、お子さんの発達や家庭での状況について深い共通理解を図っている。また、必要に応じて随時個別面談を実施し、心理的なサポートと具体的な支援方針の擦り合わせを迅速に行うことで、家庭と密接に連携した支援をしている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100		・サービス担当者会議等には基本的に児発管が参加し、必要に応じて専門的支援担当者や児童指導員も同席している。	
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	67	33	・保護者の同意のもと、教育機関や医療機関と情報共有を行い、必要に応じて関係機関と連携できる体制を整えている。 ・現場での様子を確認することでアセスメントを深め、家庭・学校・事業所が連携した一貫性のある支援体制の構築に努めている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	83	17	・保護者の同意のもと、園・学校等との情報共有や地域資源の情報提供に取り組んでいるが、十分に実施できていない部分もある。現在は、園へのお迎え時に担当者と直接対話し、日々の様子や支援方法について情報共有を行い、相互理解を図っている。	・今後は、個別支援計画の共有や会議の実施などを通して連携をさらに深め、園や学校と協力しながらインクルージョンの推進に努めていきたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	67	33	・就学時の移行にあたっては、保護者の意向を踏まえ、就学先の情報は保護者から共有を受けている。現在、学校と事業所が直接情報共有する機会は多くないが、今後は保護者や相談支援専門員と連携し、就学先の小学校等へおさまの特性や支援内容を引き継ぐ移行支援を進めていきたい。	・今後も関係機関と連携し、就学後も途切れのない支援体制づくりに努めていきたい。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	50	50	・児童発達支援センター主催の研修に参加し、支援の質の向上に努めている。	・今後も積極的に研修に参加し、個別ケースへの助言やスーパーバイズを受ける機会の確保を検討し、センターと連携しながら、より専門性の高い支援体制の構築を目指していきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	33	67	・直接的な定期交流は行っていないが、外出プログラム等を通じて地域施設を利用し、地域の子どもと関わる機会を設けている。	・近隣の放課後児童クラブや児童館との直接的な交流や、地域の子どもたちとの合同活動には至っておらず、今後の課題として認識している。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	100		・日々の送迎時に活動の様子を伝えるとともに、家庭での状況や困りごとを共有し、保護者との共通理解に努めている。あわせて、支援記録への丁寧なコメント入力を通じ、子どもの日々の変化や発達状況を随時共有している。	・現在の取り組みに加えて定期的な面談の機会を拡充し、家庭と事業所が同じ目標に向かって連携できるよう、より一層の相談援助の充実を図っていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	50	50	・現時点で体系的な家族支援プログラムの実施には至っていないが、必要に応じて情報提供や助言を行っている。	・今後の実施について検討していく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100		・契約時には、運営規定や支援内容、利用者負担等について丁寧に説明している。また、支援プログラムの様子はInstagramに動画を掲載し、活動内容が伝わるよう工夫している。	・Instagram等を閲覧していない保護者にとっては内容が分かりにくい可能性もあるため、今後は周知方法の工夫について検討していく。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100		・契約時およびモニタリング時に、本人および保護者の意向を丁寧に確認している。あわせて、モニタリングやアセスメントを通じてニーズの把握に努め、支援内容の検討に反映している。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100		・個別支援計画を説明の上、保護者から同意を得ている。		
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100		・行動面の課題については、具体的な対応策の助言や関係機関(保育所・相談支援専門員等)との連携を行い、必要に応じて利用時間の調整を含めた支援を行っている。 ・定期的なモニタリングで保護者様の意向を丁寧に伺い、お子さんの発達状況やご家庭での様子について共通理解を深めています。必要に応じて個別面談も実施し、家庭と連携しながら支援方針の確認・調整を行っている。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	17	83	・現時点では定期的な保護者会の開催には至っておらず、交流機会のあり方について引き続き検討していく。過去に土曜日開催を試みたものの、保護者同士の自然な交流の場づくりには課題があると認識している。	・保護者間の交流促進やきょうだい支援も未実施であり、重要な検討課題として位置付けている。将来的には、保護者がリラックスして対話できる茶話会や、きょうだいに焦点を当てた交流イベントの企画を進めていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100		・苦情受付窓口を設け、重要事項説明書等で周知している。苦情が寄せられた際は、真摯かつ迅速に対応するとともに、法人本部と連携のうえ組織的な解決を図る体制を整えている。また、すべての苦情を記録・共有し、原因分析と改善策の検討を通じて再発防止に努めている。	・今後も透明性の高い運営を心がけ、保護者が安心して意見を伝えられる環境づくりを進めていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100		・法人ニュースレターや事業所SNS等を活用し、活動内容や行事予定の情報発信を行っている。年4回のニュースレター発行に加え、インスタグラムやリタリコブログを日々更新し、事業所の取り組みを積極的に公開している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100		個人情報保護方針に基づき、適切に管理している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100		・視覚支援カードを活用し、子どもの特性に応じた分かりやすい伝達に努めている。あわせて、言葉の言い換え等の工夫を行い、安心して理解できるようにきめ細かな対応を心がけている。 ・保護者の状況に応じて面談方法や説明方法を調整し、必要に応じて関係機関同席のもと支援を行っている。連絡手段については、口頭に加えてLINE等のテキストツールも活用し、共有漏れのない確実なコミュニケーション体制を整えている。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	17	83	・地域イベント(例:ハロウィン行事)において近隣店舗と連携し、地域との関わりを持つ機会を設けている。	・現在は地域住民を招待する行事等は実施できておらず、今後の課題である。 ・地域連携を求めているが、実際は難しい。実際におこなっていて成功している事業所があったら見学に行きたい。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	83	17	・事故防止・緊急時対応・防犯・感染症対策等の各種マニュアルを整備し、職員への周知および定期的な訓練を実施している。 ・年2回、長期休みのプログラムを活用して、消防署と連携した実践的な防災訓練を行い、専門的な指導を受けている。 ・事業所内研修においてマニュアルの確認・共有を継続し、組織全体で緊急時対応力の向上と安全管理の徹底に努めている。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100		・災害時や感染症発生時に備えたBCPを策定し、定期的に避難訓練等を実施している。	・職員間での協議を通じて内容の見直し・改訂を行うとともに、実際の災害を想定したシミュレーションを重ねることで、計画の実効性向上に努めている。引き続き、児童の安全確保と支援継続が図れる体制の強化を進めていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	83	17	・当事業所では、契約時およびモニタリング時、必要に応じて随時状況確認を行い、服薬状況やてんかん等の既往歴を把握し、全職員で情報共有している。	・予防接種の把握が十分にできていない現状があり、服薬や通院については、安全管理の観点から適切に確認していくことが重要と考えている。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	83	17	・現在は保護者からの情報をもとに対応している。 ・誤食防止のため、おやつ提供前のスタッフミーティングでの口頭確認に加え、お菓子棚へのアレルギー情報の掲示を徹底し、二重のチェック体制で安全管理に努めている。	・必要に応じて医師の指示書の確認も検討していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100		・安全計画を作成し、研修や訓練を通じて安全管理の徹底を図っている。計画はスタッフ間で定期的に見直し、周知を行っている。また、ヒヤリハットの記録を共有し、具体的な対策を検討することで、職員一人ひとりの危機管理意識の向上につなげ、事業所全体で事故防止と安全な支援環境の維持に努めている。	
50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	83	17	・安全計画を策定し、安全計画に基づく取組内容を保護者へ周知している。 ・年度当初または、年1回以上、安全計画を見直ししている。	・避難訓練時に安否確認の連絡訓練を検討している。	
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100		・ヒヤリハット事例は発生後、速やかに記録を作成し、ミーティングで共有している。事業所内で原因分析を行い、再発防止策の検討・実施につなげている。 また、内容は法人へ報告し、事故防止と再発防止に活かしている。		

	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100		<p>・虐待防止のため、職員に対する研修機会を確保し、適切な対応に努めている。虐待は決してあってはならない重大な人権侵害であり、疑いを含め発見した場合には速やかな通報が義務付けられていることを、全職員に周知している。</p> <p>・法人で虐待防止委員会を開催するとともに、事業所内でも研修を実施し、職員の意識向上と知識の定着を図っている。セルフチェックリストを活用した日常支援の振り返りにより、早期の気づきにつなげる体制も整備している。また職員が一人で抱え込まないよう、相談しやすく話しやすい職場環境づくりを推進している。</p>	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	83	17	<p>・身体拘束は原則行わない方針とし、やむを得ない場合に限り、「切迫性・非代替性・一時性」の三原則を満たすことを条件に、組織的に判断する体制を整えている。あわせて、実施が想定される場合の手続きを明確化し、事前説明および計画への記載を行う仕組みとしている。</p>	<p>・現在、身体拘束を必要とする利用児童はいないため、個別支援計画への記載はないが、今後、必要な事案が生じた際には、保護者および利用児童へ十分に説明し、同意を得たうえで個別支援計画に反映し、チームによる支援を通じて未然防止に努め、保護者と連携しながら、児童の特性に応じた適切な支援の共有を進めていきたい。</p>